



2023.10.27  
第182号

### 中江藤樹の思想と学校教育



喜多方市教育委員会  
教育長 佐川 正人

大河ドラマ「どうする家康」が放映され、徳川家康がクロージアアップされています。その家康誕生から六十六年後の一六〇八年に近江国（現在の滋賀県）に生まれ、藤樹学を創出した中江藤樹という思想家をご存じでしょうか。

本市の人づくり指針である「なかよくたくましく生きる」は、瓜生岩子氏・蓮沼門三氏の精神と共に「いかに生きるべきか」を考える藤樹学を基盤として作成されたものです。以下に学校教育との関連で藤樹学の手法のいくつかを紹介いたします。

一つ目が、「五事を正す」です。五事とは、和やかな顔・思いやりのある言葉づかい・すんだ目で物事を見据える・人の話をよく聴く・まごころをこめて相手を思うということです。これらのことを大切に

**発行**  
福島県市町村教育委員会  
津支会  
麻沼支会  
北耶両

**編集**  
福島県教育庁  
会津教育事務所

**編集協力**  
小・中学校長会

にすることは、児童生徒がお互いに尊重し合い、助け合うことに繋がるのではないのでしょうか。いじめや不登校は、児童生徒が不安や孤立感を感じているときに起こりやすい問題とも言えます。「五事を正す」ことで、児童生徒は安心して取り組むことができ、いじめや不登校問題を解決へ導いてくれることと思います。

二つ目として、学問は知識を獲得することに留まらず、生活の場に生かすことこそが重要としています。友達と高め合う日々の学びは、自分を育て家族や地域の役に立つ意義のあるものになるのではないのでしょうか。

藤樹の思想は、時代を超えて、現代の教育にも大いに役立つものであると考えます。藤樹の思想を参照し、子どもの健全な成長を促す教育を行っていききたいものです。

### 前期の所長(管理)訪問から

前期の所長(管理)訪問は、六十校を訪問させていただきました。(後期は三十二校を予定)授業参観においては、一方通行の画一的な授業から「個別最適化された学び」、「協働的な学び」、「探究的な学び」へと、「学びの変革」を意図した取組が見られました。今後も、「ねらい達成のためのICT活用となつていくか」、「子どもが考え、活動する時間が確保されているか」、「教師が話しすぎているか」など、授業改善の視点を明確にし、子どもが活躍する授業づくりをお願いします。

また、管理面においては、管理重点事項の三つの柱である「①働き方改革」「②学校全体の教育力向上」「③不祥事の根絶」についてお話ししました。

各学校での取組状況を伺うと、「働き方改革推進委員会を定期開催して業務改善を図っている」「教員の多忙化の現状を保護者に説明し理解が得られた」「初任者の負担軽減及び学力向上のために校内体制を見直した」「実効性のある服務倫理委員会となるよう工夫している」など、たくさんの方の好事例を聞くことができました。

これらの取組は、会津域内において管理面の課題となつている「心身に不調をきたす教員の増加」や「課題を抱える児童生徒への対応の困難さ」、「交通加害事故の増加」などの解決につながるものだと考えます。

会津教育事務所では、域内の課題解決のために、参考となる情報の提供や研修会の充実などに努めながら、引き続き各学校を支援してまいります。

# 令和5年度 会津教育事務所 指導の重点【後期】

第七次福島県総合教育計画

令和5年度学びの変革推進プラン

## 会津の強み【令和5年度の学校訪問や各校の学力向上の取組，各種研修会協議から】

- 1 児童生徒の「対話」を意識しながら授業が展開されるなど，授業改善の意識が広がりつつある。教職員が一丸となって授業改善に取り組んでいる学校が増えている。
- 2 児童生徒のよさを見取り，学級全体に広げていくような教師のコーディネートが見られる。生徒指導の機能を生かしながら，児童生徒が互いに認め合えるような学級集団づくりに取り組んでいる学校が増えている。
- 3 ユニバーサルデザインの視点を大切にされた授業づくりが行われている。すべての児童生徒が「分かる・できる」授業を目指した授業実践が増えている。



## 会津の課題【令和5年度全国学力・学習状況調査結果，前期学校訪問等から】

- 1 全国平均正答率を見ると，国語（小）はおおむね全国平均であり，国語（中）はやや下回っている。算数（小）はやや下回っており，数学（中）及び英語（中）は下回っている。
- 2 平日や休日において，ゲームやスマートフォン等を使用する時間が多くなるにつれて，各教科の正答率が低下する傾向が見られる。
- 3 児童生徒の考えを集約したり，意見を交流したりするなど，ICT機器を効果的に活用した「協働的な学び」の促進が求められる。
- 4 不登校が年々増加し，1,000人あたりの出現率が全国や県平均を上回る傾向が見られる。



## 学びをつなぐ，育ちをつなぐ教育

### 確かな学力

#### 1 主体的・対話的で深い学びの実現

- 「授業スタンダード」に基づく授業づくり
  - ① 見方・考え方を働かせる問いの設定
  - ② ねらいを明確にした話し合い場面の設定
  - ③ まとめ・振り返りの時間の十分な確保
  - ④ 一人一人の児童生徒の学び（変容）の見取り
- 「指導の重点（小・中学校教育版）」の活用
  - ・ 各教科等の授業の設計・実施・評価の工夫

#### 2 学習の連続性を持たせる基盤づくり

- 「家庭学習スタンダード」に基づく自己マネジメント力の育成
  - ① 授業の学習内容の定着を図る家庭学習
  - ② 家庭学習（復習，予習）を効果的に活用した授業の実施

#### 3 学力向上策の組織的な推進による授業改善

- （令和5年度授業改善グランドデザイン参照）
- 全国学力・学習状況調査，ふくしま学力調査の結果分析と活用
    - ・ 客観的データに基づく実効性のある改善策の実施
  - 「ふくしま活用力育成シート」の活用による授業の質的改善
  - ICT機器を効果的に活用した学びの充実

#### 4 カリキュラム・マネジメントの充実

- 育成を目指す資質・能力の明確化と教育課程の意義の共有
  - ・ 教科横断的な視点による教育計画の作成と実施



### 居場所づくりと絆づくり

#### 1 不登校の未然防止と早期対応

- 「ふくしまサポートガイド」の活用
  - ① 教師による「居場所づくり」と児童生徒による「絆づくり」の推進
  - ② 「個別の援助計画」の作成と校内・校種間での共有
  - ③ SCやSSW，保護者を加えたチームによる組織的な援助
  - ④ 「特別な教室」設置やICT活用による学習機会の確保
  - ⑤ 「子どものSOSをより早く気づくために」（パンフレット・ホームページ版の活用）
    - ※ 会津教育事務所作成
  - ⑥ 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（COCOLOプラン）に基づいた「チーム学校」による支援

#### 2 いじめ見逃しゼロ

- ① 積極的な認知と組織的な早期対応
- ② 定期的アンケート調査等による状況把握と具体的対応

#### 3 情報モラル教育の充実

- ・ SNS利活用の適正な考え方と態度の育成

#### 4 心に響く道徳教育

- ① 学校，家庭，地域が一体となった道徳教育の推進
- ② 児童生徒が自己を見つめる時間を重視した授業づくり



### 共に学び，共に生きる教育

#### 1 校内支援体制の充実

- 「コーディネートハンドブック【2020年版】」の活用
  - ① 特別支援教育コーディネーターを核としたケース会議や校内研修の充実
  - ② 児童生徒，保護者との合意形成に基づく「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」の作成と活用，引継ぎ
  - ③ 上記計画を活用した交流及び共同学習の充実
  - ④ 教育的ニーズの整理の仕方（ハンドブック追補版参照）

#### 2 ユニバーサルデザインの視点による授業づくり

- ・ 教室の環境整備やつまずきを想定した手立ての工夫

### 健やかな体

#### 1 体力向上と健康推進

- 「自分手帳」の活用による健康マネジメント能力の育成
  - ① 体力向上推進計画の見直しと評価・改善
  - ② 適切な運動量が確保された息も心も弾む授業の工夫

#### 2 教育活動全体による食育の推進

- ① 肥満防止などの望ましい食習慣の育成
- ② 栄養教諭等の専門家派遣事業の活用



## 育ちをつなぐ学び



#### 1 キャリア教育の推進

- 「キャリア・パスポート」の活用
  - ① 成長の振り返りや将来の生き方を考える学びの充実
  - ② 学年・校種間・高等学校への引継ぎと実践的な活用

#### 2 幼児教育の充実

- ① 幼児期における資質・能力の育成を図る指導計画の作成と実施
- ② 実態把握に基づく豊かな体験活動の展開
- ③ 幼保小連携，家庭や地域との連携の充実

## 子どものSOSをより早く気づくために

～「不登校」に関する「家庭教育支援リーフレット」及び「詳細版」の発行について～

P T A代表者、家庭教育に携わる方、学校関係者等で組織する「地域家庭教育推進会津ブロック会議」では、年々増加傾向にある不登校の子どもとその保護者への支援をテーマとして、家庭教育における支援方法について協議してきました。そして、令和5年8月、これまでの協議内容をもとに「家庭教育支援リーフレット」及び「詳細版」（リーフレットのポイント解説や相談先・関係機関一覧等）を発行しました。当事務所ホームページに掲載しましたので、ぜひご覧ください。なお、ダウンロードも可能です。

本リーフレット等が保護者及び学校関係者のお役に立ち、子どもたちの笑顔と元気につながることを願っています。

### 【保護者へお知らせしたいこと】

ア お子さんとの関わりで大切にしたいこととは

⇒ 「ふだんの親子関係について」と「子どもが学校へ行きたくないと言ったら」の欄をご覧ください。親子のよりよい関係づくりにつながるポイントを掲載しています。

イ お子さんが登校をしぶったり、不登校になったりした際の相談先について

⇒ 学校や関係機関へ積極的に相談してください。相談先は「詳細版」をご覧ください。多くの方々が力になってくださいます。

### 【学校関係者へお願いしたいこと】

ア 本リーフレットは、不登校等でお困りの保護者への配付はもちろん、学校だよりやホームページ、さらに、保護者会、就学時健康診断等でご紹介ください。

イ 教職員の皆様は、本リーフレットを手元に置き、保護者からの相談や関係機関との連携にお役立てください。

会津教育事務所  
ホームページ



「家庭教育支援リーフレット」(両面印刷し、巻き三つ折りにしてご利用ください)

## 我がまちからの情報発信

湯川村教育委員会

### 国宝・国重要文化財を有する勝常寺との連携活動

会津盆地のほぼ中央に位置する湯川村は、福島県内で最も小さい村でありながら、国宝である薬師三尊像をはじめ、平安時代前期の仏像が12体安置されている勝常寺が存在します。

近年、勝常寺を中心とした様々な取組が行われております。令和3年度から令和5年度まで勝常寺が主体となり、「重要文化財勝常寺薬師堂修理事業」を行いました。

今回の修理事業は、薬師堂で断続的に雨漏りが発生したため、昭和39年の修理から58年ぶりに銅板屋根を全面葺き替えしました。

この修理事業にあわせて、村の団体や他市町村、村内の小学校と連携した事業を実施しております。令和4年度には工事現場の現地公開説明会を2回開催し、磐梯町や村内の湯川村ふるさとおこし協議会と連携した「瑠璃光のきずな」ライトアップ事業やご朱印風の記念カードを発行しました。特に磐梯町と同日に開催したライトアップは、境内に灯されたブルーを基調とした照明に、薬師堂を覆っている工事シートを活用して薬師三尊や薬師堂の四季折々の姿を映し出したことによって、勝常寺の魅力を存分にアピールすることができました。

また、勝常寺の東側にある勝常小学校と連携した取組として、6年生による「希望ARTプロジェクト」に勝常寺が協力し、児童が描いた勝常寺の「薬師如来坐像」を野外用に転写し薬師堂境内に掲示しました。描かれた「薬師如来坐像」の周りには、コロナ禍が収束した後の村内の児童生徒や保護者の希望や願いが綴られました。

そのほか勝常寺の門前である勝常集落では、住民により黒塀や拝観者が憩える地場産品販売所の「角屋」が建設され、秋には収穫感謝祭が実施されております。

現在も「村の宝、国の宝」である勝常寺を中心として、関係者が互いに連携・協力し合いながら、一つ一つの事業や活動が、広がりを見せつつあります。



## 各学校の特色ある取組紹介

### 「なりたい自分」目指しキャリア教育推進

猪苗代町立緑小学校

令和4・5年度キャリア教育モデル校としての指定を受け、模索しながらも目指すべき児童像に向かって取組を進めています。キーワードは「なりたい自分」です。単に職業観を育てるのみでなく、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、学ぶ意義をしっかりとらえさせることが大切といえます。それは、社会生活で生きて働く汎用的な力の育成にもつながるものです。そのため、まず育みたい基礎的・汎用的能力を、自校の実態を受け、「どんな思いも受け止める力」など、子どもにも分かりやすい表現としました。また、初年度は複数の教科等にまたがっていた実践を、2年目はキャリア教育の要となる特別活動（特に学級活動）の指導のあり方に焦点化し実践を深めているところです。

各学年の学級活動では、身近な解決すべき課題をみんなで話し合う中で、課題解決に向けて努力していく過程そのものが、子どもたちにとっての喜び・充実感へと高まってきていると感じます。特に、児童企画による「なかよし集会」は、子どもたち

のアイデアが満載です。町内小学校の統合を次年度に控えた今こそ、自らの考えをしっかりと表現し、「なりたい自分」に向かって歩み続ける力の育成が重要です。「何のために学ぶのか」を実感できるキャリア教育を地域も巻き込んで推進しています。



5・6年生(複式学級)での学級会

#### キャリア教育で育みたい「みどりっこ」の力

- ① ずからのよさに気付く力
- ② どんな思いも受け止める力
- ③ りっぱに思いを伝える力
- ④ いろんなことにもチャレンジする力

### AI時代を生き抜くための読解力向上に向けた取組

西会津町立西会津小学校

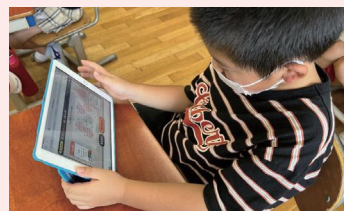
本校では、「保小中を通した読解力（リーディングスキル：RS）向上プラン（町教育委員会作成）」に基づき、保・中と連携して基礎的・汎用的読解力の育成に取り組んでいます。その特徴的な取組は以下のとおりです。

- 5・6年児童及び教員のRSテスト受検
  - RSテストは受検後すぐに結果をダウンロードすることができます。読みの傾向を分析し、個に応じた学び・支援に活用していきます。
- RSを意識した授業づくり
  - 児童にとって親密度の低い語等をピックアップし、意味を確認したり、意図的に使ったりします。
- ※「授業づくりワークシート」活用：県教委HP参照
- 授業における「共書き」の実践
  - 授業では、教師は板書する内容を口頭で伝え、板書します（児童は、聴写する）。教師と共に書き終えることができるようにしています。

- 認知機能トレーニング（コグトレオンライン）
  - 「覚える」「数える」「写す」等の問題にチャレンジし、認知機能を高めるトレーニングをしています。

その他、「教科書視写」、「町学校教育アドバイザーによる授業参観（各学期1回ずつ）」等も行っています。

「読解力」は、授業だけでなく、生きていく上で欠かせない力です。すべての子どもが該当学年の教科書に書かれている内容を正しく読むことができるように、本校では日々の小さな実践を、今後も積み重ねていきます。



コグトレオンラインの様子

### ロードフラワー学習

柳津町立会津柳津学園中学校

会津柳津学園中学校は、柳津中学校と西山中学校が統合して6年目を迎えた学校です。令和4年度からコミュニティ・スクールとなり、これまで以上に地域と連携して歩む学校を目指しています。

さて、本校からは「ロードフラワー学習」を紹介します。これは、1学年の総合的な学習の時間に行っているもので、町内の方を講師としてお招きしています。活動内容は、一言でいうと「道路のわきに花を植え育てる活動」です。

主な学習の流れは以下のとおりです。

- 1 講話・種まき
  - ・「ロードフラワーの始まりと中学生に期待すること」と題した講師からの講話
  - ・マリーゴールドの種まき（約1,500ポット）
- 2 西山地区植栽（西山小学校との交流会も兼ねる）
  - ・西山小学校入り口付近の国道両側に植栽
- 3 柳津地区植栽

- ・町役場前や町施設前に植栽
- 4 除草作業や枯れた花の片付け（予定）

昨年度までも行っていたのですが、「活動あって学びなし」とならないよう、今年度は学習の流れを見直しました。町の歴史や携わった方々の思いなどを知った上で実践することにより、新しい課題が見つかります。今後、持続可能な柳津町をつくることのできるよう、探究的な学習を進めていきます。



会津柳津学園中学校の生徒による植栽活動